

武蔵野納税貯蓄組合総連合会 会長賞

老いてなお納税

三鷹の森学園三鷹市立第三中学校

三年 大橋 景

私の塾の英語の先生は 85 歳です。いつも元気に授業をしている先生なので、85 歳だということを知って初めて知った時、私は呆然としてしまいました。さて、今の日本では少子高齢化が進んでいます。先日のニュースでは、前年より人口が 90 万人も減ってしまったと話題になっていました。高齢者に対する生産年齢人口の比率は、今年は 1.8 人ですが、2050 年には 1.3 人まで減少してしまい、高齢者を支える人が減っていることを意味します。そこで、私の英語の先生は高齢者として支えられる側か、塾の先生として納税して支えている側なのか、疑問に思ったので調べてみました。

まず、働く高齢者は年金をもらえるのかという点です。これは、在職老齢年金という制度があり、60 歳以上の人の給料と年金の合計が一定の基準を超えると一部年金がもらえなくなるという制度です。基準額は今年度から 50 万円から 51 万円に上がりました。また、その働く高齢者も増加傾向にあります。65 歳以上の就業者数は 914 万人もいて、企業にとって貴重な労働の担い手で、戦力として欠かせない存在と評価する人も多いです。また、私の英語の先生と同じ 85 歳は 18 万人いて、思ったより多くて驚きました。

調べた結果、私の英語の先生は、収入によっては年金を一部もらえていない可能性があることがわかりました。私の塾には 85 歳よりも高齢な先生がたくさんいます。授業中も、「自分よりあの先生の方が先に死ぬ。」などの冗談をよく言っています。ですが、自分が受験を終えるまでは頑張りたいと思いました。また、そういった在職高齢者を増やすために、在職老齢年金制度を見直す必要があると思います。人手不足になりつつある日本で、働きたい高齢者が働きやすい仕組みを作るべきだからです。在職老齢年金制度をなくすと、さらに 5,000 億円もの財源が必要になってしまうというデータもありますが、その財源も働く高齢者が増えれば確保できます。また 2024 年の経済白書には、日本の高齢者を、「国際的に見ても健康で、長く働きたいという意欲も強い。」と分析しています。私の祖母も家の家事を手伝ってくれますが、いつもとても元気に接してくれます。このように、働くことで高齢者も元気になれるのかもしれませんが、今まで、日本は高齢化が進んでもうダメだと思っていたが、少子高齢化を止めようとしたり、悲観的に見るのではなく、高齢者も経済の枠組みに入れるような仕組みを作ったりと、少子高齢化に適応していこうという新しい視点を持つことで、日本の未来にも希望を見出すことができるのではないかと私は考えます。